

| | |
|---|---|
| 横浜市小学校社会科研究会 3 学年部会 研修会記録 | 令和6年10月18日 横浜市小学校教育研究会 会長 沼田 留美子 横浜市小学校社会科研究会 会長 高畠 聡 同 学年部長 栗田 一輝 |
|---|---|

| | | |
|-------------------|------------------|---------------|
| 【提案日時】 9月4日(水) | 提案 松本 芽依先生(都岡小) | 竹永 記士先生(豊岡小) |
| 【会場】 横浜市立平沼小学校 | 司会 白井 亮先生(新台小) | 田川 晋啓先生(山元小) |
| | 記録 戸川真理子先生(稲荷台小) | 広中 幹久先生(東俣野小) |

12月一斉授業研に向けての指導案検討

授業者 松本 芽依先生(都岡小学校)

1 単元名

「地域の安全を守る～火災から都岡のまちを守る人々の思い～」

2 提案者より

児童の実態

社会科への興味や関心があり、意欲が高い。しかし、学んだことを言語化する力や蓄積された学習内容を他の事象に繋げる力に課題がある。本単元では、都岡に住む一員として、火災の消火や防止に向けて自分ができることについて選択・判断ができる力の育成を目指したい。

視点①「単元づくり」

学区内に消防団の器具庫が3つある。現在学校の改修工事を行っており、改修後、消防団の器具庫が校内に建つ予定である。この環境を生かして、子ども達が興味関心をもてるようにする。また、消防団の方の話を実際に聞いたり、器具に触れたりする活動を行う。子どもたちが考えを話し合う時に、話を聞いたり、体験したりした時に感じたことや気付いたことを根拠にできるようにする。

視点②「授業づくり」

消防団の役割について不思議に思うことから、消防団の学習につなげていく。実際には出動して放水することのない消防団だが、訓練を重ねていることから、「なぜ、出動しないのに訓練をしているのか。」という、本気の学習問題へとつなげていく。※本気の学習問題については検討中

3 協議会

消防団をどのように取り上げ、本気の学習問題へとつなげていくか

- ・消防団の強みを知ることで、興味につなげていくとよい。
- ・「消防団が地域にあるよさ」や「生活を削ってまで消防団を続ける意味」など消防団の意義を考えることで本気の学習問題に繋げていくのはどうか。
- ・消防団の活動に参加するなどの体験活動を行う事で、子ども達にとって、より身近なものになると考えるので、体験活動を大切にしていけることを手立てとして生かしていく。

どのような手立てを講じて、自分の考えを言語化できる子どもに育てていくか。

- ・グループで振り返りを話し合うことで、友達よさを生かしたり、言語化できたりしている友達の言葉を生かしたりして、自分の考えを言語化できるようになるのではないかと。また、グループは発言できる子や書くことが得意な子など、各グループに配置できるように意図的に作るとよいのでは。
- ・ロイロノートの提出箱の共有機能を使って、子どもが書いた振り返りを共有することで、書き方をより具体的に示すことができる。
- ・振り返りは書く→発表→そこからまた考えるような流れだと活動を入れると考えが深まるのでは。

授業者 竹永 記士先生（豊岡小学校）

1 単元名

「はたらく人とわたしたちの暮らし～店ではたらく人と仕事（仮名）～」

2 提案内容

児童の実態

まち調査では、学校以外の時間に、保護者と興味があるところに行って調査をしたり、駅の反対側に行ったりするなど自分から興味関心をもって取り組んでいる子どもも多い。振り返りで学習したいことをどんどん考える子どもも少なくない。一方で、自分で調べたり、自分の考えをもったりすることが苦手な子どももいる。本単元で、体験的な学習や見学などの経験を積み、社会科が「覚える」だけでなく「考える」「体験する」ことで楽しむことができる学習であることを気付くことができるようにしたい。

視点①「単元づくり」

地域の商店街にあるスーパーKを中心として学び、自分たちが利用するスーパーや小売店と比較しながら学びを深めていけるようにしていく。スーパーKをまち調査で見つけたことを生かして、学習のつながりがもてるようにする。地域のスーパーKの見学や実際のチラシを活用して、調べる楽しさを感じることができるようにする。

3 協議会

スーパーKのよさを生かした単元づくりについて

- ・大型スーパーに行けばなんでも揃うが、スーパーKには消費者が目的をもって行くはず。
- ・多くのスーパーには食品だけでなく、雑貨などさまざまな商品が売られている。一方でスーパーKは、食品しか売られていないスーパーであり、子どもの認識のズレから問いを生み出すことができる。➡販売の工夫
- ・スーパーKは、一般のスーパーであまり売られていないサザエを仕入れたり、あえて安くした商品をチラシに載せなかったりしている。➡品揃え・販売の工夫
- ・入り口では高齢者の方が躓くことがないようにマットを敷いている。➡利用者の安全を守る工夫
- ・スーパーKでは、品揃えや価格や利用者への配慮などの工夫があり、どこを切り口として考えたとしても、販売の仕事が消費者のニーズに合わせ、売り上げを高めるように工夫して行われていることを理解することができる。

<講師の先生より> 平沼小学校 校長 寺岡 徹 先生

スーパーKは、曜日によって肉の日や魚の日など決めていたり、午前や午後によって客層が変わっていたりしている。スーパーKの変化について、学習していくことができれば子どもが問いを生み出しやすい。

<講師の先生より> 元石川小学校 校長 野間 義晴 先生

都岡小学校 松本先生 「地域の安全を守る～火災から都岡のまちを守る人々の思い～」について

- ・取材を進めていくとさらに資料が広がって面白い。消防団に入っている人達の思いを聞くとさらに良い。
- ・体験活動ではホースを巻くだけでも良い。万が一に備えて、消防団は練習している。消防団の思いを聞き、その思いについて考える。
- ・足で稼ぐことと事実の見せ方をどうするかを念頭に単元を構成すると良い。

豊岡小学校 竹永先生 「はたらく人とわたしたちの暮らし～店ではたらく人と仕事（仮名）～」

について

- ・スーパーの店内の明るさや時刻についてなど、様々な切り口からギャップを考え、それがどのように売り上げにつながっているかを考えることができれば、それぞれの店のよさが分かってくる。

3年生の単元について

- ・足で稼ぐのが、3年生の社会科の良さである。体験活動をたくさんさせて、自分ごととしてとらえることができるような単元づくりを大切にしてほしい。

文責 戸川 真理子（稻荷台小学校） 広中 幹久（東俣野小学校）